

# 会 議 録

会議名	新宮市教育環境整備計画審議会
日 時	平成 18 年 11 月 5 日 午後 1 時 30 分～午後 4 時
場 所	新宮市役所第 2 委員会室
出席者	審議会委員 14 名出席、欠席者（大石・浜口・角口・福住・榎本・西委員） 大江教育長、楠本教育次長、清水総括指導主事、畑下指導主事、榎谷指導主事、 平見
概 要	<p>1．前回会議の報告（事務局）</p> <p>2．小中学校の適正規模と配置について</p> <p>3．幼稚園と保育園（所）のあり方について</p> <p>4．学校給食について</p> <p>会長 過小規模校を少人数教育を追及するのであれば、地域の大人は子どもへの説明責任がある。過小規模の教育集団を創るのであれば、大人のエゴでなく子どもたちに理解されるようにしないといけない。ベストミックスでいきたい。</p> <p>副会長 資料内の合意事項となっている部分を、「まとめ案」に訂正を願いたい。</p> <p>事務局 全員了解。</p> <p>A 委員 議事録の「センター方式も良いと思う。」の記述について、私は自校方式がベストだと思うが、財政的にはセンター方式もやむなしという思いである。そのような表現に訂正してもらいたい。方式が何であれ、食事内容等、食育にどれだけ力を入れるかである。小中学校の統廃合について、新聞記事にも決定されたごとく掲載されたので、地域の人から 6 回ほど聞かれた。</p> <p>会長 市民にどれだけ理解していただくかだが、校長という立場で参画していただいているお二人にはご迷惑をおかけするが、どのようにすれば市民に理解していただけるか十分検討したい。</p> <p>副会長 どちらの委員会も論点があきりせず、議論が進んでいる。子どもたちにとって、どのような教育環境が良いか、教育、食育についても論点を整理して議論してもらいたい。</p> <p>会長 前回の会議では、中学校は城南中を緑丘中に統合し、その跡地利用については、学校は地域の文化的シンボルであることから、城南中跡地に 4 小学校を統合し 1 小学校を新設。</p>

通学については、公共交通機関の利用や中学校での学校給食の実施を検討すべきという議論であった。小中学校適正規模検討委員会委員の皆さんから追加すべきご意見があればご発言願いたい。

#### B 委員

熊野川では緑の雇用事業で100人くらい森林組合が夫婦等を受け入れしたが、定住できる環境が整っていないため、子どもを増やす施策として、うまくいかなかった。県施策と併せた将来を見通した方法を考えていかないといけない。

#### 会長

このようなことも街づくりという観点から、皆様からの提案・提言という形で紹介できればと思う。

#### C 委員

前回、学校施設を視察したときに、建物の老朽化を強く感じた。今後、アンケートも実施され、様々な意見を聞く中で、統合で人数が増えたということだけでは親も納得しないだろう。耐震補強だけでは納得してもらえないと考え、小学校の2校新設となっているが、4校が2校になるから財政も半分になるということではない。教育環境に使える予算をどれだけ引き出せるか、防災面なども検討しないといけない、どこまでのエリアを考えればよいのか。

#### 会長

単なる数合わせに終わってはいけない。金がないから子ども達に犠牲になってもらうではいけない。教育税の構想案もあるようだが、教育に即した物差しで考えないといけない。教育環境を向上させる、この1点は守っていきたい。

#### A 委員

那智勝浦町には、学校間の研究会議を行える体育文化会館があるが、新宮市も学校跡地利用として学校の意見交換の場や教育レベルを向上させるための夢のある何かを打ち出せないか。蓬萊小学校は中心地なので、文化会館などがあればと考えたこともある。

#### 会長

研修の場としての拠点を持つことは大切。今後、教師も団塊の世代が大勢辞めるので、教育現場の引継ぎもあり再雇用もあるかもしれないが、足立区では成績に応じて予算配分を行うという過激なところも出てきた。

#### D 委員

県立中学校の話もあり、中高一貫教育、小中一貫教育等、市内の公立中の目玉を何にするのか、レベルが下がることを懸念する。どのような教育を行うか議論をしないとけない。

#### 会長

人格を高めるような教育はできないか。

#### E 委員

丹鶴幼稚園児が8人であったり、蓬萊小があと1人多ければ2クラスになるとか、財政的な事情はさて置き、子ども達に良い教育環境を創ればよい。

副会長

子ども達の教育課題、生活習慣の課題、先生が目が子ども達、一人ひとりに行き届いているか。教育のバージョンアップを図るため、学級編成などもおさえ、市民が安心して子ども達を市に任せるといえるような教育環境を整えば、新宮市所管の学校へ行きたいという先生も増えるのではないか。

会長

学校規模と学級規模はギャップがあるかもしれない。今回のアンケートでは、十分聴けないかもしれない。

副会長

学級数が決まらないと、学校規模が決まらない。

会長

学級人数には法的な縛りもあり、難しい部分もある。

副会長

県のニュービジョンを見る限りでは、学級人数まではおさえていない。全国的にも教育委員会と文部科学省とで予算関係でぶつかっている。

会長

続いて、幼保一元化委員会の内容について、室委員長から報告をお願いします。

I 委員長

昨日、橋本市で本会と同じような会議があった。8名の園児しかいない幼稚園が他の園と一緒に受け入れてもらったところ、少ないほうの園児は素晴らしい表情で、自分から話しかけていた。和歌山市の中之島では、平成16年から幼保連携をやっている。一人ひとりの子どもに刺激があり、先生にもこれまでの自分一人の評価でしか児童を見なかったが、数人の先生による評価ができ、先生自身も育てられる。子どもの集団化は財政だけでなく、子どもの育成にとっても大切だ。これまでは教育要領が手引書だったが、幼稚園基準ができた。

平成8年からは教育の共用化と一体化を図っている。幼保一元化は前から行われており、国も子ども園を創る方向で進めている。橋本市は幼稚園、保育園を1つにした。

新宮市では、小学校には幼稚園を併設した方が良いという米国の教育者のアドバイスもあり、60年間小学校敷地内に幼稚園があった。

親は小学校に上がる前のステップとして、1年間幼稚園に行くこととしていた。認識が違っている部分をこの際変えるため、小学校から幼稚園を切り離し学校近くに新設、連携を図る。

幼稚園は3～5歳の3年幼児教育制度を取り入れ、近くに建つ保育所と研修しながら連携をとる。幼稚園を1園にするか2園にするかは未確定だが、平成6年に建設された王子幼稚園は残す。保育園も幼稚園に付けるか、もう1園を廃園にするか未定。

F 委員

同一敷地内での幼保園は考えていなかったが、検討していきたい。保育所を一つにという案もあるが、検討課題も山積している。

#### G 委員

今回は良いチャンスをいただいている。幼稚園の教諭が公立保育所に人事異動により配属されたことも伺ったが、幼保の両免許を保持されており、幼保の同一教育を実施してもらいたい。子育て支援センターも推進してもらいたい。

#### I 委員長

親が病気の時に、子どもを引き受けてくれるところがないと病院にも行けない。子育て支援センターも含めて考えてもらいたい。

#### H 委員

審議会の進行では、民間保育園が混乱させて申し訳ない。同じ子どもが民間、公立でも同じ保育が受けられないといけない。将来の少子化に向け、定員減、園の減はやむをえないと思うが、民間の基礎が緩むと混乱する。社会福祉法人は営利目的ではないことを理解してもらいたい。民間経営を圧迫しないとまとめて頂き感謝している。公立と民間との格差をなくす努力をしていただけるようお願いしたい。認定子ども園が子どもにとって100%良いとは限らない。親のための少子化のスタイルであり、4時間、8時間保育が良いのか、新宮市が突出したもので良いのか十分検討を。

#### I 委員長

橋本市の保育所は、特区で創った。運動会に福祉課から園児に土産が届く、そこで議論がある。厚生省と文部科学省の壁があり、施設内にも仕切る壁を造れといわれしかたなくロッカーを設置した。跡地利用についても教育研修所をという案も出て、公私の格差をなくす方向で少しずつ協議を進めている。

#### I 委員長

国・県の施策が出たからそれに替えるのではなく、経済効率だけでなく、子どもにとって良い方法の検討をお願いしたい。民間と公立が同じ土俵に上がって切磋琢磨し、子供たちに負担のかからないような方法を検討してもらいたい。

#### I 委員長

就学前教育は、いくら良いカリキュラムを作っても実践できないと駄目。十分時間をかけて検討を！

#### J 委員

60年間、学校内の幼稚園で1年保育をしてきた。20年代からお茶の水大学附属幼稚園へ訪問に毎年行って研修を重ね、10年前から小川博先生、村上史朗先生を新宮にお招きして研究を進めてきた歴史がある。現在は25~26人学級でやっているの、将来的には1園になるとしても、是非5園を2園に縮小してやっていきたい。

#### E 委員

公立保育所は市内に2園あるが、大浜保育所は津波タワー建設の要望が出ており、熊野地保育所と統合し新設の保育所1園を提案したい。民間でできることは民間でという流れもあり、市内の定数管理をすれば共存できるのではないか。

#### B 委員

同じ園の中で、先に帰る子、残る子どもが共存するような、子供たちが理解できない環境は避けるべきだ。

A 委員

学校長と園長を兼務していた時代、小学校との連携という点を考えれば良かったし、たくさんメリットがあった。幼稚園が小学校から切り離されると、教育的配慮から離れていくような気がする。

I 委員長

せっかくの連携をきってしまうのはもったいないという意見もあった。小学校は、幼稚園、保育園と十分連携をとることを追記してもらいたい。民間保育園も受け入れてもらえるような学校との連携を！

K 委員

園が統合で少なくなった場合、スクールバスの検討もお願いしたい。

会長

学校給食について、事務局から説明願います。

事務局 学校給食について説明。

K 委員 紀宝町はセンター方式で中学校給食が始まったと聞いたので調査願いたい。

副会長

0～15歳までの連続性のある教育方針を是非、この機会に検討してもらいたい。跡地利用についても、今後の新宮市の発展を左右するものであり、本審議会での検討に期待したい。

H 委員

来年から子育て支援センターが始まると聞いたが、公私の対応を同じようにしてもらいたい。

教育長

子育て支援については、市の中でも窓口を一本化しようとしているが、来年からできるか確定ではない。

H 委員

民間も公立も同じ立場で対応してほしい。公立が先行して民間は置いてきぼりだ。民間も一緒にやらないかと声をかけてもらいたい。公立が先行していくと良くならない。スタートする場合も、同じ歩調で進めてもらいたい。

I 委員長

和歌山市で支援センターは25箇所ある。

会長

本日はこれで終了しますが、次回会議は11月26日(日)ですが、再度2つの委員会に分かれて審議することとします。